

10 モンゴル襲来と鎌倉幕府の滅亡

- (1) 13世紀のはじめにモンゴル民族から出た人物は、モンゴル民族を統一して国を建設した。この人物の名を答えなさい。
- ()
- (2) (1)の人物の子や孫はヨーロッパ遠征を行い、ユーラシア大陸の東西にまたがる大帝国を建設した。この大帝国は何と呼ばれるか？
- ()
- (3) (1)の人物の孫で5代目にあたる人物は、中国支配のために都を移し、国号を定めた。この人物の名を答えなさい。
- ()
- (4) (3)の人物が定めた国号を答えなさい。
- ()
- (5) (4)の国の都を答えなさい。
- ()
- (6) (3)の人物が服属させた、当時の朝鮮半島を支配していた国の名を答えなさい。
- ()
- (7) (3)の人物は、日本を従えようとたびたび使者を送ってきたが、執権であったある人物がこれを退けた。この人物の名を答えなさい。
- ()
- (8) 1274年、(4)は(6)の軍勢もあわせた約3万の兵でまず対馬、壱岐を襲い、その後博多湾に上陸した。(4)の集団戦法やすぐれた兵器によって幕府軍は苦戦したが、内紛や暴風雨によって撤退した。この出来事を何と呼ぶか？
- ()
- (9) (8)の出来事後、(4)は南部の国を滅ぼして中国全土を支配した。(4)によって滅ぼされたこの国の名を答えなさい。
- ()
- (10) (8)の出来事後、幕府は(4)の再度の襲来に備えて九州北部の要地を御家人に警備させるとともに、博多湾岸にあるものを構築させた。あるものとは何か答えなさい。
- ()
- (11) 1281年、(4)は約14万の大軍で九州北部にせまったが、御家人の活躍や(10)などの防備もあり、上陸できないまま、ふたたび暴風雨にあって撤退した。この出来事を何と呼ぶか？
- ()
- (12) (8)、(11)の2度にわたる(4)の襲来を何と呼ぶか？
- ()
- (13) (4)は日本への3度目の遠征を計画していたが、実際には行われなかった。その理由を書きなさい。
- ()
- (14) (3)の人物に仕えたイタリア人で、著書の中で日本を「黄金の国ジパング」としてヨーロッパに紹介した人物の名を答えなさい。
- ()
- (15) (14)の人物の著書の名を答えなさい。
- ()

(16) 鎌倉時代の後期、近畿地方を中心に荘園領主や幕府に従わず、年貢を奪うなどした武士が出現した。これらの武士は何と呼ばれるか？

()

(17) 鎌倉時代の御家人は、子弟に領地を分け与える相続制度を原則としたため、鎌倉時代の後期になると領地が細分化されて生活が苦しくなった。この相続制度は何と呼ばれるか？

()

(18) 御家人の生活苦を救うため、幕府は1297年に借金を帳消しにする法令を出した。この法令の名を答えなさい。

()

(19) 政治の実権を朝廷に取り戻そうとして倒幕の兵をあげ、1度は失敗して隠岐に流されるも、有力御家人や新興の武士を味方につけたことで鎌倉幕府を倒した天皇の名を答えなさい。

()

(20) 鎌倉幕府の有力な御家人であったが、(19)の天皇に味方し、京都の六波羅探題を攻め落とした、のちに室町幕府の初代将軍になった人物の名を答えなさい。

()